

令和3年度探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会

主体的に学び 自分の言葉で語る 児童生徒の育成  
—郷土に学び、未来を拓くプロジェクト型学習を通して—



竹原市立吉名学園 有松浩司

# 主体的に学び 自分の言葉で語る 児童生徒の育成 — 郷土に学び、未来を拓くプロジェクト型学習を通して —

発達の段階に応じた  
資質・能力の設定  
(育てたい12の力)

総合的な学習の時間  
(3～9年生)の  
カリキュラム作成

昨年度までの取組



## (1) 知識及び技能

ア 知識

イ 技能（プレゼンテーション・文書作成・動画制作）

## (2) 思考力・判断力・表現力等

ウ 課題を発見する力・企画する力

ケ 評価する力

エ 活動を計画・推進する力

オ 情報を収集する力

カ 整理・分析する力

ク 発想する力・工夫する力

キ 表現する力（プレゼンテーション・文書作成・動画制作）

## (3) 学びに向かう力・人間性等

コ 挑戦する力・改善する力・やり遂げる力

サ 協働する力

シ 将来を設計する力





## **キ 表現する力（プレゼンテーション・文書作成・動画制作）**

### **第Ⅰ期（１・２年生）**

自分の伝えたい内容について、教師の示したフォーマットを参考に、実物や写真を見せながら３文～５文程度の文章を覚え、話すことができる。

### **第Ⅱ期（３・４年生）**

教師の示したフォーマットや助言を基に作成した原稿用紙１枚程度のスピーチ原稿（手書き）を覚え、抑揚をつけながら、つまらずに話すことができる。

### **第Ⅲ期（５・６・７年生）**

自分の調査したことや考えたこと（主張）などを、その場で言葉を考えながら伝えることができる。また、必要に応じて、スライドを指し示したり、相手の反応に合わせたりしながら話すことができる。

### **第Ⅳ期（８・９年生）**

原稿なしで、その場で言葉を生み出しながらプレゼンテーションを行うことができる。またプレゼンテーション、文章、動画など、課題解決に向けて最も適切とされる表現方法を選択し、必要に応じてそれらを組み合わせながら、他者の共感を得たり他者を説得したりすることができる。

## キ 表現する力（プレゼンテーション・文書作成・動画制作）

### 第Ⅰ期（１・２年生）

自分の伝えたい内容について、教師の示したフォーマットを参考に、実物や写真を見せながら**3文～5文程度の文章を覚え**、話すことができる。

### 第Ⅱ期（３・４年生）

教師の示したフォーマットや助言を基に作成した**原稿用紙1枚程度のスピーチ原稿（手書き）を覚え**、抑揚をつけながら、つまらずに話すことができる。

### 第Ⅲ期（５・６・７年生）

自分の調査したことや考えたこと（主張）などを、**その場で言葉を考えながら伝える**ことができる。また、必要に応じて、スライドを指し示したり、相手の反応に合わせたりしながら話すことができる。

### 第Ⅳ期（８・９年生）

原稿なしで、**その場で言葉を生み出しながらプレゼンテーションを行う**ことができる。またプレゼンテーション、文章、動画など、課題解決に向けて最も適切とされる表現方法を選択し、必要に応じてそれらを組み合わせながら、**他者の共感を得たり他者を説得したり**することができる。

# 総合的な学習の時間（3～9年）のカリキュラム作成

## 各学年2単元

### 第6学年

#### 単元名 ドキュメンタリー制作～地域の様々な職業の方を

##### 1 単元の主な目標

著名な地域で活躍されている様々な職業の方の仕事のドキュメンタリー番組としてまとめて発信することを通じ、地域に対する一層の愛着を育てる。

##### 2 単元の実施期間

第6学年 1 2月上旬～3月中旬

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月

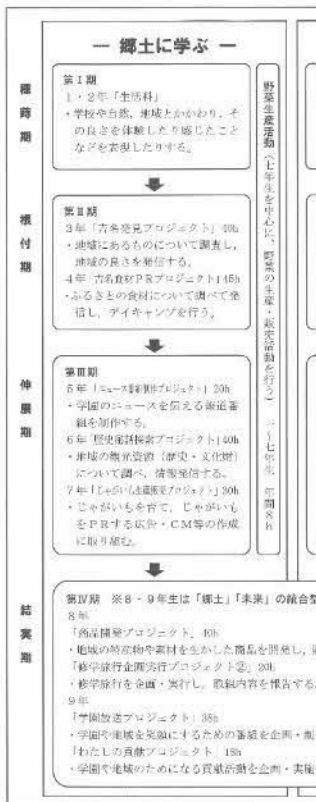
##### 3 単元の概要

著名な地域で活躍されている様々な職業の方の仕事のドキュメンタリー番組としてまとめて発信することが主な児童はこの時期までに、郷土の特徴物や自然等についてマニフェスト等）を作成して地域の良さを伝える活動を各「成長の喜びを」という単元で、自分の1人1人成長の成長を振り返る活動を体験している。本単元では、新たに社会の中で働くことについて、具体的に考えていく児童は単元の中で、地域の方にインタビューをしたり情報を集め、集めた情報をもとに、ドキュメンタリー番組望ましい職業観や地域に対する一層の愛着をもたせていく「ナルチ」という学習との関連を図りながら学習を進め

##### 4 単元で重点的に育てる資質や能力及び態度

	育てようとする力	イ
(1)	知識・技能	自分が撮影した映像が動画（CM・番組等）を制作する前に考えた質問項目に沿って、より深く情報を収集する。記事執筆を意図しながらの工夫しながら動画を制作し、編集したい理由について、お互いが納得しているようとしている。
(2)	思考力・判断力・表現力等	
(3)	学びに向かう力・人間性	

### 5 「YOSHINA 未来学」における単元の位置付け 一郷土に学ぶ 職業を拓く一



### 6 単元計画（全20時間）

月	学習内容	時数	評価規準	関連する教科等
12	<b>課題の設定</b> ○地域にはどんな職業の方がいるかを話し合う。 ○NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」や先輩の作成した動画を視聴し、ドキュメンタリー番組制作への意欲をもつ。 <b>計画の取組</b> ○地域で活躍している方の中に、ほかどんな職業の人がいるのかを調べ、 ○国語科の学習で「プロフェッショナル」を読み、ドキュメンタリーの書き方について学ぶ。 ○自分がその職業について詳しく知りたい地域の方を選定し、調査計画を立てる。	1	(2)ア	
1	<b>【調査計画】</b> ①何を尋ねるか、調査の成果を形にする。 ・仕事内容の概要 ・その職業を志したきっかけ ・これまでに経験した困難や挫折など ・自分にとっての「プロフェッショナル」とは？ など ②取材の日程や日程をきき、インタビュー（複数台で撮影） ・記録係 ○インタビューも動画撮影など、地域の方に取材を行う。	1	(2)オ	国語「プロフェッショナル」
2	<b>【調査計画】</b> ①何を尋ねるか、調査の成果を形にする。 ・仕事内容の概要 ・その職業を志したきっかけ ・これまでに経験した困難や挫折など ・自分にとっての「プロフェッショナル」とは？ など ②取材の日程や日程をきき、インタビュー（複数台で撮影） ・記録係 ○インタビューも動画撮影など、地域の方に取材を行う。	1	(2)エ	
	<b>【調査計画】</b> ①何を尋ねるか、調査の成果を形にする。 ・仕事内容の概要 ・その職業を志したきっかけ ・これまでに経験した困難や挫折など ・自分にとっての「プロフェッショナル」とは？ など ②取材の日程や日程をきき、インタビュー（複数台で撮影） ・記録係 ○インタビューも動画撮影など、地域の方に取材を行う。	2	(2)オ (3)コ	
	<b>整理・分析</b> ○集めた情報を、作業を促して整理する。	1	(2)カ	

7	○取材を通して自分たちの考えたこと、ドキュメンタリー番組を作るために必要なことをまとめる。 <b>まとめ・表現・発行</b> ○国語科の学習を活かして、ドキュメンタリーのナレーション原稿を作成する。 ○冊子を完成して、プレゼンテーションタブレット型端末で録音する。 ○映像・音声・BGM・ナレーションを組み合わせて、ドキュメンタリー番組を制作する。 ○制作されたものを互いに視聴し合い、良い点や改善点を指摘し合う。 ○友達の評価をもとに修正を行い、仕上げを行う。 ○地域の方を招待し、完成したドキュメンタリー番組の試写会を行う。 <b>振り返り</b> ○ドキュメンタリー番組の制作を通して、改めて職業について考えたことを個人でまとめる。 ○活動を振り返り、できるようになったことを書く。	1	(2)キ		○違う色の付箋を使って、自分たちがその人の職業について調べてどう考えたかを整理できるようにする。 ○ドキュメンタリー構想図を作成させる。
8		1	(2)キ	国語「プロフェッショナル」	○行先を活用してお互いの考えを集約させるなどの工夫を行い、発想の発散に作業が集中しないように留意する。 ○ナレーションの録音は何度でも録音直しが可能。自分たちが納得いくまで何度でもあらためて再録音させる。 ○これまでの動画編集の経験を活かして取り組ませる。
9		1	(2)キ		
10		1	(2)カ		○PM1を使って、相互評価を行わせる。
11		1	(2)キ		○相互評価で指摘し合ったことをもとに、修正を行わせる。 ○可能であれば地域の方を招待しての試写会を行う。プレゼンテーションを行わせることもよい。
		1	(3)シ	道徳「働くこと」	○授業の時間に、本単元でお話になった方を取り上げ、改めて働くことについて考えた場を設ける。働くことは、人のためや社会全体のためであり、かつ自己成長の喜びを感じるためでもあることに気付かせる。

### 7 内容の取り扱いに関するその他の配慮事項

- 映像制作に当たっては、様々な職業にかかわる地域の方に直接インタビューしたり映像を撮影したりする活動が伴う。撮影に関しては、必ず相手方の許可を得るようし、聞き取った情報の扱いについても、必ず確認をとるなどして、慎重に行うものとする。
- 国語科「プロフェッショナル」の学習でドキュメンタリーの脚本の書き方を学び、総合的な学習の時間で実際の取材・動画編集を行うというように、それぞれが教科・領域の役割を明確にする。
- 地域の方に取材を行う際は、校外学習を行う。安全への配慮や事前のマナー指導などを徹底する。またお世辞になった方に対しては、必ずお礼の手紙を書く場を設ける。



# 今年度の主な取組



①理論研修の実施

②授業研究の実施(3回)

③生活科

→単元開発, 単元計画の作成及び実践

④総合的な学習の時間

→単元計画に基づく実践及び改善

⑤ルーブリックの作成



# 主体的に学び 自分の言葉で語る 児童生徒の育成 — 郷土に学び、未来を拓くプロジェクト型学習を通して —

ポイント① 本気になる課題設定  
自分・学校全体・地域社会にとって重要な課題と出合わせる。→貢献型・提言型・夢実現型プロジェクト  
(地域の食材を生かしたオリジナル商品の開発, 地域の人口増加など)

課題設定・挑戦

ポイント② 行動指針に基づく挑戦  
自分達の立てた計画及び行動指針に沿って, 活動を実行させる。教師の支援は必要最低限とし, 児童生徒自身に原点に立ち返らせながら, 思い切った活動を進めさせる。

ポイント③ 失敗・困難との出会い  
失敗・困難な場面に意図的に出合わせる。(思ったより売れない, 予算が足りない, 高評価を得られないなど) その際, ICT (写真・映像) を活用して問題に直面させる。

失敗・改善

ポイント④ コミュニティスクール制度の活用  
学校運営協議会の承認を得られれば, 必要な経費を得られる予算インセンティブ等の外部評価を導入する。相手の心を動かすプレゼンテーションが求められる。

発達段階に応じた

再挑戦

ポイント⑤ 再挑戦の場の設定  
失敗を失敗のままで終わらせるのではなく, 再挑戦の場を与えることで, 困難や苦勞を乗り越えた先に得られる達成感・満足感を味わわせ, 自信をもたせる。

総合的な学習の時間  
(3～9年生)の  
カリキュラム作成

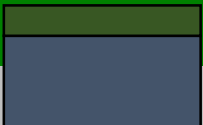
追加・修正  
・改善

の取組

# 実践事例

## 2年生 生活






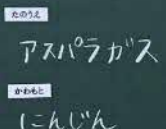


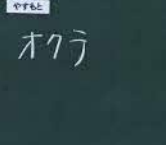
### 「大きくそだて わたしの野菜さい」



# ①野菜を育てる計画を立てる。

5月6日(木) No. 6 めあて じぶんの好きな野菜をかんばってそだてよう!!

なつぐらにできる野菜

 (トマト)		 おくら
 ほたけ	 (ななつき)	 アスパラガス
 なつめ	 なつめ	 やぶこ

にんじん  
オクラ

イメージマップ:

- たねなえ (with a question mark)
- 土づくり (with a question mark)
- 水やり
- 草とり
- 〇〇をつくらう!
- はたけをつかわせてもらうおちがいたすま
- とよしの本でしらべる
- かわいい人にきく

五月六日(木)

- つかえそうなほたけを見つける
- はたけをつかっていいかどうかおちがいたすま
- とよしの本でしらべる
- おちがいたすまにきく
- たねなえをかう
- うえてそだてる

水やり  
草とり

一人一種類育てたい野菜を選択する。

野菜を育てるために、何をしなければならぬか考え、活動計画を立てる。  
(イメージマップの活用)



## ②計画に沿って、自分たちで活動を進める。



どこで野菜を育てようかな…。まずは使えそうな畑を探してみよう！

教頭先生、お願いします。畑を使わせてください！



## ②計画に沿って、自分たちで活動を進める。

本で調べよう！



苗を植えよう



畑を作ろう！



看板を作ろう！



## ②計画に沿って、自分たちで活動を進める。



7月24日(月) 生かつ学しゅうカード NO. (10)

名まえ

★学しゅうのめあて

やさいのかんさつもしょう

★やさいのかんさつをしよう!



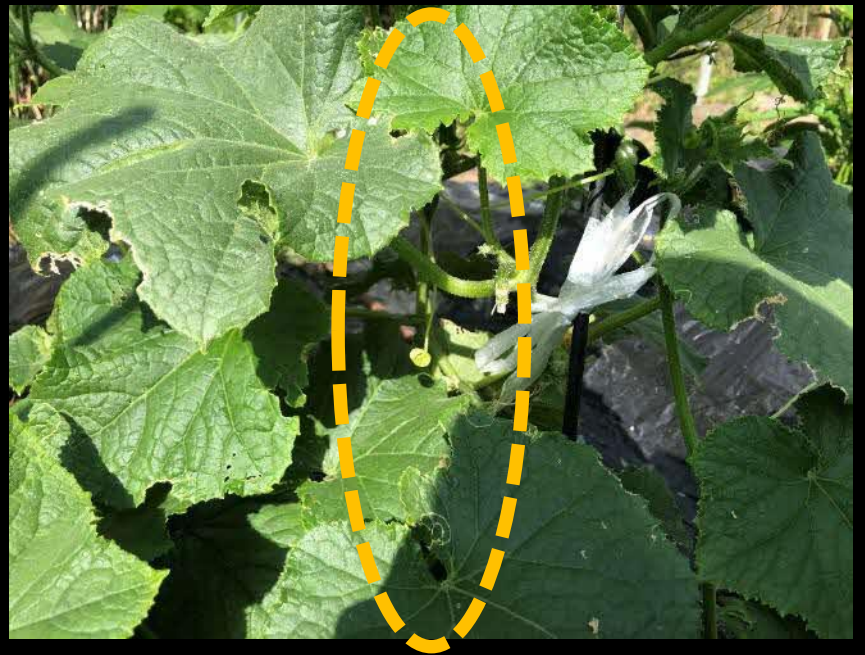
★きがついたことを書いてみよう! (野さいはほんとうにげんきかな?)

ナスのかんさつをしました。前のナスより  
せがのかわかいました。はの色はみどりともら  
さきでした。

もとや先生にはかたべられていてもた  
いじょうぶかを聞いてみたいです。

大きそだっています。もとや先生にしかしつもん

してみよう!







カメラがとらえた！

# ③カラスをどうするか話し合う。

6月23日(水) No.18 めあて やさいがピンチ!! どうするかかんがえよう!!

**A** カラスをやっつける  
たいじする  
すまこわす

**B** カラスはやっつけずに  
やさいをまもる

**C** カラスにぜんぶ  
たべてもらう

X カラスにもいのちがある

X みんなもいざなぎもち

X きりがない

X もうくれない

おうちビニールハウス

六月二十三日(水)

あえてえさをあげる

カラスもいやがらせでやっつけておいてはな

川本くん

カラスはやっつけずにやさいをまもるほうほう

ビニール

ネット

トゲトゲ

ケボテン

たばらなくてしまったのはあげる

すのまわしをかこむ

先生にきく

もどや先知

おちやんとかんがえている

はちまき、ひまわり、なつめ、あまご、あまご、あまご、あまご

しらべる

せめていする

- A カラスをやっつける？
- B カラスを傷つけずに野菜を守る？
- C あきらめてカラスに全部食べてもらう？

カラスから野菜を守る方法についてアイデアを出し合う。



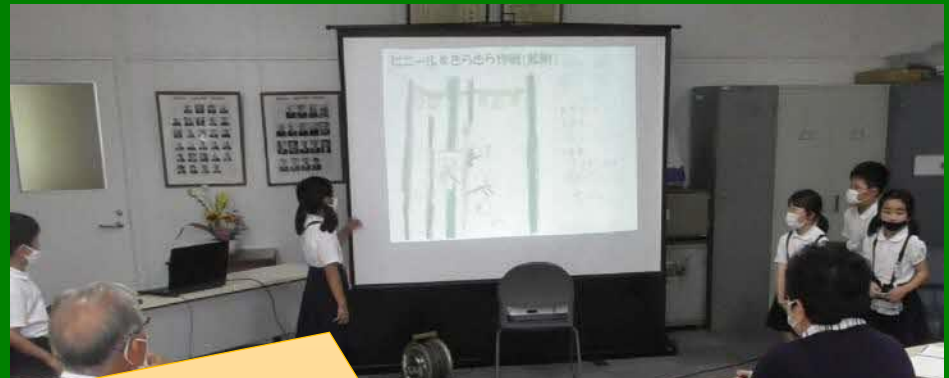
ところで...  
お金どうするの？



# 学校うんえいきょうぎ会



# ④カラス対策の経費を得るために、学校運営協議会でプレゼンテーションする。



**カラスから野菜を守るために  
お金を使わせてください！**



**許可します！がんばって野菜  
を守ってください！**

## ⑤カラス対策を実行する。





# ⑦八百屋さんを開いて、感謝の気持ちを伝える。





# 主体的に学び 自分の言葉で語る 児童生徒の育成 — 郷土に学び、未来を拓くプロジェクト型学習を通して —

ポイント① 本気になる課題設定  
自分・学校全体・地域社会にとって重要な課題と出合わせる。→貢献型・提言型・夢実現型プロジェクト  
(地域の食材を生かしたオリジナル商品の開発, 地域の人口増加など)

課題設定・  
挑戦

ポイント② 行動指針に基づく挑戦  
自分達の立てた計画及び行動指針に沿って, 活動を実行させる。教師の支援は必要最低限とし, 児童生徒自身に原点に立ち返らせながら, 思い切った活動を進めさせる。

ポイント③ 失敗・困難との出会い  
失敗・困難な場面に意図的に出合わせる。(思ったより売れない, 予算が足りない, 高評価を得られないなど) その際, ICT (写真・映像) を活用して問題に直面させる。

失敗・改善

ポイント④ コミュニティスクール制度の活用  
学校運営協議会の承認を得られれば, 必要な経費を得られる予算インセンティブ等の外部評価を導入する。相手の心を動かすプレゼンテーションが求められる。

発達段階に応じた

再挑戦

ポイント⑤ 再挑戦の場の設定  
失敗を失敗のままで終わらせるのではなく, 再挑戦の場を与えることで, 困難や苦勞を乗り越えた先に得られる達成感・満足感を味わわせ, 自信をもたせる。

総合的な学習の時間  
(3～9年生)の  
カリキュラム作成

追加・修正  
・改善

の取組

# 3年生「吉名ミュージアム創立プロジェクト」



ミュージアムを作ろう！  
やった！完成！



よりよいミュージアムに  
改善しよう！



# 9年生「吉名未来プロジェクト」



学校運営協議会プレゼン



商品化決定！





# 全学年の単元計画&ルーブリックの作成

## 1年生

「いくぞ！がっこうたんけんたい」  
「ひろがれ えがお」

## 2年生

「大きくそだて わたしの野さい」  
「とび出せ！町のたんけんたい」

## 3年生

「吉名ミュージアム創設プロジェクト」  
「人物大辞典制作プロジェクト」

## 4年生

「吉名食材PRプロジェクト」  
「2分の1成人式企画実行プロジェクト」

## 5年生

「自然体験企画実行プロジェクト」  
「ニュース番組制作プロジェクト」

## 6年生

「歴史秘話探索プロジェクト」  
「ドキュメンタリー制作プロジェクト」

## 7年生

「じゃがいも生産販売プロジェクト」  
「修学旅行企画実行プロジェクト①」

## 8年生

「職業体験プロジェクト」  
「修学旅行企画実行プロジェクト②」

## 9年生

「吉名未来創造プロジェクト」  
「自己実現プロジェクト」

# 全学年の単元計画 & ルーブリックの作成

## 7 評価計画 (ルーブリック)

	学習活動 評価方法	S (期待以上)	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)
1	自分の力で野菜を育てるという本単元の課題を知る。 《評価方法》 ・行動観察 ・生活カード	自分の力で野菜を育てることに意欲をもち、そのために必要な活動を、生活経験を基に複数考え、自分で計画を立てるとともに、家族にインタビューしたり本を集めたりと、自分で活動を進めようとしている。	野菜の特徴、育つ場所などについて、進んで本を探して読んだり、他者に積極的に質問したりして、進んで調べようとしている。	野菜の特徴、育つ場所などについて、本を読んだり他者に聞いたりして、進んで調べようとしている。	自分の力で野菜を育てることに意欲をもち、そのために必要な活動を自分なりに考えている。
2	自分の立てた計画に沿って活動を進める。 《評価方法》 ・行動観察 ・生活カード	野菜の特徴、育つ場所などについて、学校図書館の本やゲストティーチャーだけでなく、自分でも積極的に本を集めたり、身近な人に聞き取りしたりして情報を集めている。また、集めた情報をメモし、野菜づくりに活用しようとしている。	野菜の特徴、育つ場所などについて、進んで本を探して読んだり、他者に積極的に質問したりして、進んで調べようとしている。	野菜の特徴、育つ場所などについて、本を読んだり他者に聞いたりして、進んで調べようとしている。	自分の立てた計画に沿って活動を進める。
3	野菜の栽培方法について議論し、実行する。 《評価方法》 ・行動観察 ・生活カード	野菜のよりよい成長を願って、主体的・継続的に水やりや観察に取り組むとともに、野菜のわずかな変化も見逃さず、常に問題意識をもって栽培を行おうとしている。また、より野菜の成長を促すために、ゲストティーチャーに積極的に質問したり、さらに本で調べたりして、主体的に実行している。	野菜のよりよい成長を願って、主体的・継続的に水やりや観察に取り組むとともに、より野菜の成長を促すために、ゲストティーチャーの助言を受けて実行している。	野菜のよりよい成長を願って、継続的に水やりや観察に取り組むとともに、より野菜の成長を促すために、ゲストティーチャーの助言を受けて実行している。	野菜の栽培方法について議論し、実行する。

4	クラス対策について議論し、野菜を守る方法を考える。 《評価方法》 ・行動観察 ・生活カード	野菜やそれらをねらう別の生き物など、様々な生き物の立場に立ちながら、野菜を守る方法について、これまでの生活経験を踏まえながらアイデアを3つ以上出している。	野菜やそれらをねらう別の生き物など、様々な生き物の立場に立ちながら、野菜を守る方法について、これまでの生活経験を踏まえながら、アイデアを5つ以上出している。	野菜やそれらをねらう別の生き物も命あるものだという認識がない。また、野菜を守る方法を1つも考えられない。	野菜やそれらをねらう別の生き物も命あるものだという認識がある。
5	学校運営協議会の場でプレゼンテーションを行い、必要な経費や材料について、分かりやすいプレゼンテーションを作成し、ICT機器を活用しながら、自分の言葉で説明している。また、委員の方からの質問にも臨機応変に対応し、自分の思いや願いを一生懸命伝えている。 《評価方法》 ・行動観察 ・生活カード	学校運営協議会の場で、必要な経費や材料について、分かりやすいプレゼンテーションを作成し、ICT機器を活用しながら、自分の言葉で説明している。	学校運営協議会の場で、必要な経費や材料について、分かりやすいプレゼンテーションを作成し、ICT機器を活用しながら、自分の言葉で説明している。	学校運営協議会の場で、必要な経費や材料について、説明をすることができない。	学校運営協議会の場で、必要な経費や材料について、説明をすることができない。
6	野菜の収穫の喜びを味わうとともに、お世話になった地域の方に野菜を振る舞う。 《評価方法》 ・行動観察 ・生活カード	どのような形で地域の方に感謝の思いを伝えるか話し合う際に、相手の意識をもちながら、具体的なアイデアを複数出している。また、野菜を振る舞う際は、積極的に感謝の気持ちを伝えていく。	どのような形で地域の方に感謝の思いを伝えるか話し合う際に、相手の意識をもちながら、具体的なアイデアを出している。また、野菜を振る舞う際は、感謝の気持ちを自分の言葉で伝えている。	お世話になった方に感謝の気持ちをもつことができない。また、野菜を振る舞うことにも消極的な姿勢が見られる。	野菜の収穫の喜びを味わうとともに、お世話になった地域の方に野菜を振る舞う。
7	活動を振り返り、できるようになったことなどを書いたり話したりする。 《評価方法》 ・行動観察 ・生活カード	育ててきた野菜のことや心を寄せて世話してきたことなどを具体的な場面を取り上げながら振り返り、絵や文、話し言葉等で表現している。また、今後取り組んでみたいことや自己の成長についても触れている。	育ててきた野菜のことや心を寄せて世話してきたことなどを具体的な場面を取り上げながら振り返り、絵や文、話し言葉等で表現している。	育ててきた野菜に対する愛着が薄く、振り返りを書いたり話したりすることができない。	活動を振り返り、できるようになったことなどを書いたり話したりする。

# 発達の段階に応じた資質・能力（12の力）の設定

☆ YOSHINA 未来学（総合的な学習の時間）「9年間を見通して育てたい力の系統表」 ☆はシキシングツールの活用

佐賀県立吉野学園

学習活動	第1期（1・2年）		第2期（3・4年）		第3期（5・6・7年）		
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
<b>A プレゼン型学習</b> (プレゼンテーションソフト・資料作り) <b>B 文章作成型学習</b> (文章作成ソフト) <b>C 動画制作型学習</b> (動画編集ソフト)	学校のものや人、自然を紹介する活動 キーボード遊び 身の回りのものや自然の写真を撮影する	学校周辺のものや人、自然、自己を紹介する活動 キーボード遊び 地域のものや自然の写真及び動画撮影	地域のもの・地域の目を説明するプレゼンテーション 地域の食料や自己の成長を伝えるプレゼンテーション 地域のもの・地域の音紹介カード作成 地域の食料を使った料理のレシピ・自分新聞の作成 地域の食料を使った料理のレシピ動画制作	地域の食料や自己の成長を伝えるプレゼンテーション 地域のものや自己の成長に関する知識を身に付けることができる。	野外活動事前学習会・事後報告会におけるプレゼンテーション 野外活動のしおり作成 地域や学校を題材にしたニュース番組制作	修学旅行事前学習会・事後報告会におけるプレゼンテーション 修学旅行のしおり作成 地域の職業人を対象にしたドキュメンタリー番組制作	
①知識及び技能	<b>A 知識</b> 学校のものや人、自然に関する知識を身に付けることができる。	学校周辺のものや人、自然、自己の成長に関する知識を身に付けることができる。	A 地域にあるもの(公共物・神社等)や地域の昔に関する知識を身に付けることができる。	A 地域にある食料や自己の成長に関する知識を身に付けることができる。	A 自然活動における知識、情報を伝える手段に関する知識を身に付けることができる。	A 地域の歴史に関する知識、地域を支える人に関する知識を身に付けることができる。	
②思考力・判断力・表現力等	<b>I 技能</b> A: プレゼンテーション型学習 B: 文章作成型学習 C: 動画制作型学習	I A デジタルカメラを使って撮影ができる。また、写した写真を使って、簡単なスピーチができる。 B パソコンの起動や簡単なマウス・キーボードの操作ができる。 C デジタルビデオカメラやタブレット端末で録画の撮影・録音ができる。	I A 自分が撮影した写真や図書資料、インターネットで集めた情報を基に、プレゼンテーションソフトを用いて、目的に応じた数枚の工夫したプレゼン資料を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信ができる。 B 自分が撮影した写真や図書資料、インターネットで集めた情報を基に、文章作成ソフトを用いて、ローマ字入力、写真のトリミング、書式の変更等により50～100字程度の簡単な文章を作成できる。 C 自分が撮影した映像を基に、動画編集ソフトを用いて30秒程度の動画を制作できる。	I A 自分が撮影した写真や動画、図書資料やインターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、プレゼンテーションソフトや表計算ソフト(グラフ作成)を用いて、目的に応じた数枚の工夫したプレゼン資料を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信ができる。 B 自分が撮影した写真や図書資料、インターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、文章作成ソフトを用いて200～300字程度の工夫した文章を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信ができる。 C 自分が撮影した映像を基に、動画編集ソフトを用いて30秒～3分程度の動画(CM・番組等)を制作できる。	I A 自分が撮影した写真や動画、図書資料やインターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、プレゼンテーションソフトや表計算ソフト(グラフ作成)を用いて、目的に応じた数枚の工夫したプレゼン資料を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信ができる。 B 自分が撮影した写真や図書資料、インターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、文章作成ソフトを用いて200～300字程度の工夫した文章を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信を行うことができる。(7年生の段階で習得したすべての技術を活用し、さらに技能を高めることができる)	I A 自分が撮影した写真や動画、図書資料やインターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、プレゼンテーションソフトや表計算ソフト(グラフ作成)を用いて、目的に応じた数枚の工夫したプレゼン資料を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信を行うことができる。 B 自分が撮影した写真や図書資料、インターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、文章作成ソフトを用いて200～300字程度の工夫した文章を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信を行うことができる。 C 自分が撮影した映像を基に、動画編集ソフトを用いて30秒～3分程度の動画を制作できる。	I ABC 自分が撮影した写真や動画や図書資料、インターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、プレゼンテーションソフトや表計算ソフト(グラフ作成)を用いて、目的に応じた数枚の工夫したプレゼン資料を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信を行うことができる。 B 自分が撮影した写真や図書資料、インターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、文章作成ソフトを用いて200～300字程度の工夫した文章を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信を行うことができる。 C 自分が撮影した映像を基に、動画編集ソフトを用いて30秒～3分程度の動画を制作できる。
③学びに向かう力・人間性	<b>ウ 課題を発見する力</b> 企画する力 ☆イメージマップ	ウ 人や自然等と直接かかわる中で、気持ちや疑問を見付けることができる。 ☆イメージマップ	ウ みんなで集めた疑問や課題の中から、自分自身で追究したいことを選択・決定することができる。 ☆イメージマップ	ウ 体験したり資料を分析したりする中で新しい課題を見つけ、課題解決に向けて、様々な企画(アイデア)を出すとともに、自分自身で追究したいことを決定することができる。 ☆イメージマップ	ウ 体験したり資料を分析したりする中で新しい課題を見つけ、課題解決に向けて、様々な企画(アイデア)を出すとともに、自分自身で追究したいことを決定することができる。 ☆イメージマップ	ウ 体験したり資料を分析したりする中で新しい課題を見つけ、課題解決に向けて、様々な企画(アイデア)を出すとともに、自分自身で追究したいことを決定することができる。 ☆イメージマップ	ウ 社会的な広がり視野から自己や地域社会の課題を見出し、課題解決に向けて、様々な企画(アイデア)を出すとともに、自分自身で追究したいことを決定することができる。 ☆イメージマップ
	<b>E 活動を計画・推進する力</b>	E 教師の指示や説明をよく聞いて、活動を進めることができる。	E どうすれば課題が達成できるかを教師や友だちの助言を基に考え、活動を進めることができる。 ☆ステップチャート	E どうすれば課題が達成できるかを教師や友だちの助言を基に考え、活動を進めることができる。 ☆ステップチャート	E 課題解決に必要な情報や準備物等を教師や友だちの助言を基に考え、時間的な見通しをもって、計画的に活動を進めることができる。 ☆ステップチャート	E 課題解決に必要な情報や準備物等を教師や友だちの助言を基に考え、時間的な見通しをもって、計画的に活動を進めることができる。 ☆ステップチャート	
	<b>オ 情報を収集する力</b>	オ 検索したりインタビューをしたりして、メモや撮影しながら必要な情報を収集することができる。	オ 事前に考えた質問項目を基に、インタビューを行い、情報を聞き出すことができる。また、図書資料やインターネットを使って、必要な情報を収集することができる。	オ 事前に考えた質問項目だけでなく、相手の反応を見ながら、臨機応変に対応して、より深く情報を聞き出すことができる。また、情報の発信元や情報の真偽を確かめながら、図書資料やインターネットを使って、必要な情報を収集することができる。	オ 事前に考えた質問項目だけでなく、相手の反応を見ながら、臨機応変に対応して、より深く情報を聞き出すことができる。また、情報の発信元や情報の真偽を確かめながら、図書資料やインターネットを使って、必要な情報を収集することができる。	オ 事前に考えた質問項目だけでなく、相手の反応を見ながら、臨機応変に対応して、より深く情報を聞き出すことができる。また、情報の発信元や情報の真偽を確かめながら、図書資料やインターネットを使って、必要な情報を収集することができる。	
	<b>カ 整理・分析する力</b>	カ 様々な情報を短冊やワークシートなどに整理することができる。 ☆「なぜ」「なに」シート	カ 様々な情報をシキシングツールにより整理・分析することができる。 ☆Xチャート、Yチャート、マトリクス(分類整理)☆ベン図(比較)	カ 様々な情報をシキシングツールにより整理・分析し、その特徴などを考えることができる。 ☆Xチャート、Yチャート、マトリクス、星情報、フィッシュボーン(分類整理)☆ベン図(比較)	カ 様々な情報をシキシングツールにより整理・分析し、その特徴などを考えることができる。 ☆Xチャート、Yチャート、マトリクス、星情報、フィッシュボーン(分類整理)☆ベン図(比較)	カ 様々な情報をシキシングツールにより整理・分析し、その特徴などを考えることができる。 ☆Xチャート、Yチャート、マトリクス、星情報、フィッシュボーン(分類整理)☆ベン図(比較)	
	<b>キ 表現する力</b> A: プレゼン型学習(音声表現) B: 文章作成型学習(文章表現) C: 動画制作型学習(映像表現)	キ A 自分が伝えたい内容について、教師の示したフォーマットを参考に、実物や写真を見ながら3文～5文程度の文章を書き、話すことができる。 B 教師の示したフォーマットや助言、発話した内容を基に、整った文章を作成することができる。(手書き)	キ A 教師の示したフォーマットや助言を基に作成した原稿用紙1枚程度のスピーチ原稿(手書き)を書き、抑揚をつけながら、つまらぬに話すことができる。 B 教師の示したフォーマットや助言、発話した内容を基に、構成(はじめ・中・おわり)を意識した文章を作成することができる。(手書き・パソコン) C 自分が伝えたいフォーマットやメッセージを意識した簡単な動画を制作することができる。	キ A 自分が調査したことや考えたこと(主題)などを、その場で言葉を考えて伝えられることができる。また、必要に応じて、スライドを指し示したり、相手の反応に合わせて話しながら話すことができる。 B 目的に応じて文章作成や録音や表現を工夫し、資料を生かしながら、他者に説明する文章を作成することができる。(パソコン) C 起承転結を意識しながら構成を考え、映像の組み合わせや字幕、BGMなどを工夫しながら動画を制作することができる。	キ A 自分が調査したことや考えたこと(主題)などを、その場で言葉を考えて伝えられることができる。また、必要に応じて、スライドを指し示したり、相手の反応に合わせて話しながら話すことができる。 B 目的に応じて文章作成や録音や表現を工夫し、資料を生かしながら、他者に説明する文章を作成することができる。(パソコン) C 起承転結を意識しながら構成を考え、映像の組み合わせや字幕、BGMなどを工夫しながら動画を制作することができる。	キ A 自分が調査したことや考えたこと(主題)などを、その場で言葉を生かしながらプレゼンテーションソフトを用いて発表することができる。またプレゼンテーションソフト、文章、動画など、課題解決に向けて最も適切と思われる表現方法を選択し、必要に応じてそれらを組み合わせて発表し、他者の共感を得たり他者を説得したりすることができる。	
	<b>ク 発想する力</b> 工夫する力 ☆イメージマップ	ク 話し方、書き方など、教師が示したフォーマットに基づき、自分なりの工夫を加えることができる。また、ネーミングなどを工夫して考えることができる。 ☆イメージマップ	ク 文章や図、全体の構成など、教師が示したフォーマットに基づき、自分なりの工夫を加えることができる。また、ネーミングやキャッチコピーなどを工夫して考えることができる。 ☆イメージマップ	ク 文章や図、全体の構成など、よりよく伝えるための方法を考え、自分なりに工夫することができる。また、ネーミングやキャッチコピー、デザイン、キャラクターなど、PRしたいものがよりよく伝わるように、発想を広げたり工夫したりすることができる。 ☆イメージマップ	ク 文章や図、全体の構成など、よりよく伝えるための方法を考え、自分なりに工夫することができる。また、ネーミングやキャッチコピー、デザイン、キャラクターなど、PRしたいものがよりよく伝わるように、発想を広げたり工夫したりすることができる。 ☆イメージマップ	ク 文章や図、全体の構成など、よりよく伝えるための方法を考え、自分なりに工夫することができる。また、ネーミングやキャッチコピー、デザイン、キャラクターなどを工夫して考えることができる。 ☆イメージマップ	
	<b>ケ 評価する力</b>	ケ お互いの発表や制作物に対し、感想をもつことができる。	ケ お互いの発表や制作物に対し、良い点や改善点などを考えることができる。 ☆PMI	ケ お互いの発表や制作物に対し、良い点や改善点などを考え、伝え合うとともに、進んで他者の指摘を受けて、よりよいものになるように改善することができる。 ☆PMI	ケ お互いの発表や制作物に対し、良い点や改善点などを考え、伝え合うとともに、進んで他者の指摘を受けて、よりよいものになるように改善することができる。 ☆PMI	ケ 自己評価及び他者評価を基に、自己及び共同の制作物や取り組み方を見直し、その態度改善することができる。 ☆PMI	
	<b>コ 挑戦する力</b> やり遂げる力(主体性)	コ 与えられた課題に前向きに挑戦し、最後までやり遂げようとしている。	コ 自分が選択した課題に前向きに挑戦し、失敗しても進んで改善を図り、最後までやり遂げようとしている。	コ 自分が決定した課題に前向きに挑戦し、失敗しても進んで改善を図り、最後までやり遂げようとしている。自分の制作物が完成しなかった場合も、気持ちを切り替えて、今度は他者のために力を費やそうとしている。	コ 自分が決定した課題に前向きに挑戦し、失敗しても進んで改善を図り、最後までやり遂げようとしている。自分の制作物が完成しなかった場合も、気持ちを切り替えて、今度は他者のために力を費やそうとしている。	コ 実社会の場で活動することにもためらわず、勇気を出して活動を進めるとともに、実社会の厳しさに臨機応変に対応しながら、今の自分ができることを一杯行おうとしている。	
	<b>カ 協働する力</b> (協働性)	サ 相手に自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりとしながら、協力して活動を進めようとしている。	サ 相手意識をもつて自分の考えを伝えたり、相手の考えに共感したりしながら、よりよい解決方法を目指して活動を進めようとしている。	サ 解決したい課題について多様な意見を出し合いながら議論を行うとともに、お互いが納得しているかどうかを常に確認し、協力しながら活動を進めようとしている。	サ 解決したい課題について多様な意見を出し合いながら議論を行うとともに、お互いが納得しているかどうかを常に確認し、協力しながら活動を進めようとしている。	サ 自分の主張を訴求し、他者の主張を受け入れてサポートし合う場面でのバランスを取り、合意形成を図りながら活動を進めようとしている。	
	<b>シ 将来を設計する力</b>	シ 活動を振り返る中で、自分ができるようになったことに気付いている。	シ 活動を振り返る中で、自分ができるようになったことに気付くとともに、今後の自分の目標を具体的に見出している。	シ 活動を振り返る中で、自分や友達、地域、様々な職業の良さや気付きとともに、自分の長所や短所を整理し、短所を直して長所をさらに伸ばしていこうとしている。	シ 活動を振り返る中で、自分や友達、地域、様々な職業の良さや気付きとともに、自分の長所や短所を整理し、短所を直して長所をさらに伸ばしていこうとしている。	シ 活動を振り返る中で、自分や友達、様々な職業の良さや気付きとともに、夢や希望をもつ、自分の将来を切り拓こうとしている。	

## B 基準

様々な職業に関する知識を身に付けることができる。

自分が撮影した写真や動画や図書資料、インターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、プレゼンテーションソフトや表計算ソフト(グラフ作成)を用いて、目的に応じた数枚の工夫したプレゼン資料を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信を行うことができる。

社会的な広がり視野から自己や地域社会の課題を見出し、課題解決に向けて、様々な企画(アイデア)を出すとともに、自分自身で追究したいことを決定することができる。

自分が撮影した写真や動画や図書資料、インターネット、アンケートなどにより集めた情報を基に、プレゼンテーションソフトや表計算ソフト(グラフ作成)を用いて、目的に応じた数枚の工夫したプレゼン資料を作成できる。また、出典を明記し、責任ある情報発信を行うことができる。

自分が調査したことや考えたこと(主題)などを、その場で言葉を考えて伝えられることができる。また、必要に応じて、スライドを指し示したり、相手の反応に合わせて話しながら話すことができる。

文章や図、全体の構成など、よりよく伝えるための方法を考え、自分なりに工夫することができる。また、ネーミングやキャッチコピー、デザイン、キャラクターなど、PRしたいものがよりよく伝わるように、発想を広げたり工夫したりすることができる。

自分が決定した課題に前向きに挑戦し、失敗しても進んで改善を図り、最後までやり遂げようとしている。自分の制作物が完成しなかった場合も、気持ちを切り替えて、今度は他者のために力を費やそうとしている。

自分が決定した課題に前向きに挑戦し、失敗しても進んで改善を図り、最後までやり遂げようとしている。自分の制作物が完成しなかった場合も、気持ちを切り替えて、今度は他者のために力を費やそうとしている。

# 生活科の単元計画 & ルーブリックの作成

## 7 評価計画（ルーブリック）

学習活動	S (期待以上)	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)
自分の力で野菜を育てるといふ本単元の課題を知る。	自分の力で野菜を育てることに意欲をもち、そのために	自分の力で野菜を育てることに意欲をもち、そのために	自分の力で野菜を育てることに意欲をもち、そのために	自分の力で野菜を育てることに意欲をもち、そのために

《評価方法》	野菜やそれらをねらう別の生き物も命あるものだという認識をもち、共生の必要性について友達に話している。ま	野菜やそれらをねらう別の生き物など、様々な生き物の立場に立ちながら、野菜を守る方法について、これ	野菜やそれらをねらう別の生き物など、様々な生き物の立場に立ちながら、野菜を守る方法についてアイデア	野菜やそれらをねらう別の生き物も、命あるものだという認識がない。また、野菜を守る方法を1つも考えられない。
--------	---	--	---	---

**A 基準** → 授業時間内で「**十分満足できる**」と判断される児童生徒

**S 基準** → 授業時間外・学校外で「**期待以上**」の成果を上げている児童生徒

《評価方法》	場所などについて、学校図書館の	場所などについて、進んで本を探	場所などについて、本を読んだり	場所などについて、調べることが
--------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

《評価方法》	を交渉するとともに、得られた	ゼンテーションを作成し、ICT機	ゼンテーションを作成し、ICT機	しながら、自分の言葉で説明してい	できない。
--------	----------------	------------------	------------------	------------------	-------

《評価方法》	うとしている。	野菜のよりよい成長を願って、主体的・継続的に水やりや観察に取り組	野菜のよりよい成長を願って、主体的・継続的に水やりや観察に取り組	野菜の成長に関心が薄く、水やりも継続的に行うことができない。
--------	---------	----------------------------------	----------------------------------	--------------------------------

《評価方法》	ひを味わうとともに、お世話になった地域の方に野菜を振る舞う。	域の方に感謝の思いを伝えるかを話し合う際に、相手意識をもちながら、具体的なアイ	域の方に感謝の思いを伝えるかを話し合う際に、具体的なアイデアを出している。また、野	たアイディアを基に、お世話になった地域の方に収穫した野菜を振る舞っている。	た方に感謝の気持ちをもつことができていない。また、野菜を振る舞うことにも消極的な姿勢が
--------	--------------------------------	---	---	---------------------------------------	---

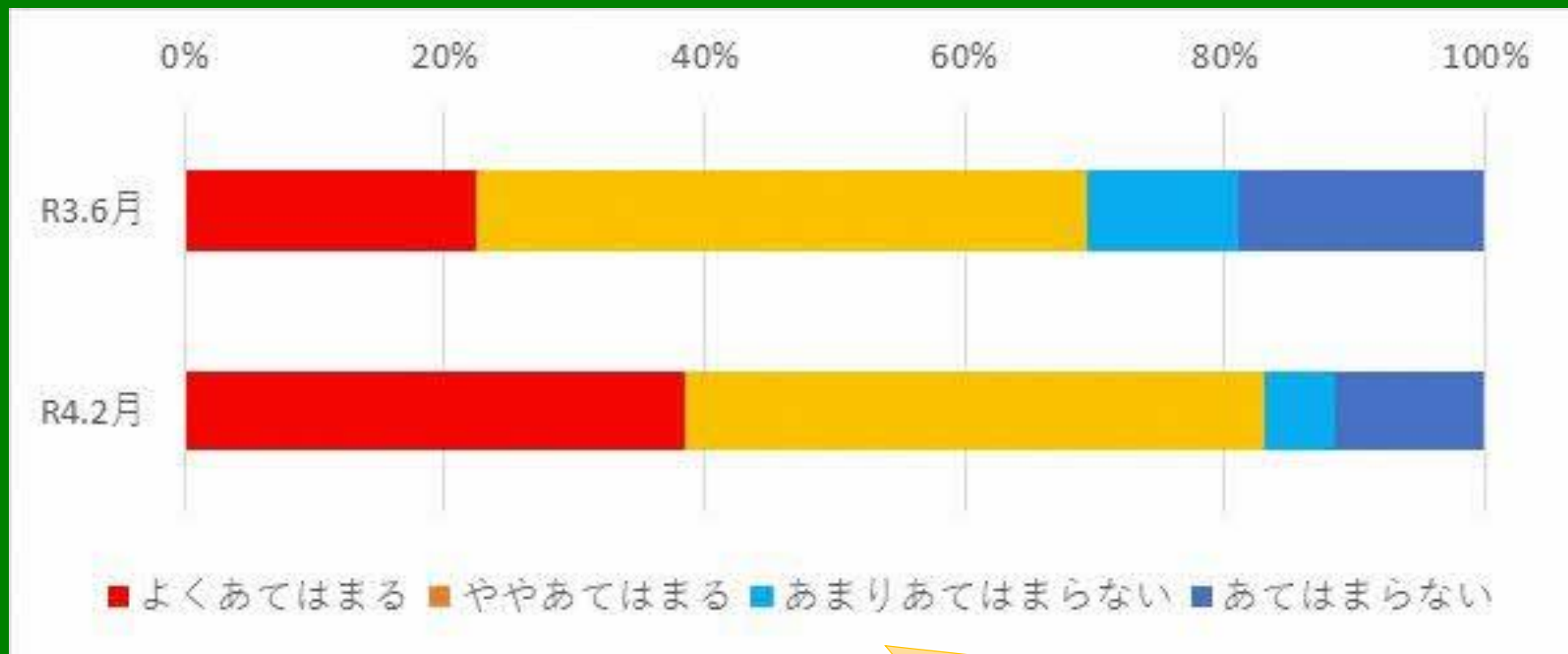
**本校の教育目標**  
**「拓く力」の育成**





# 【児童生徒アンケート】

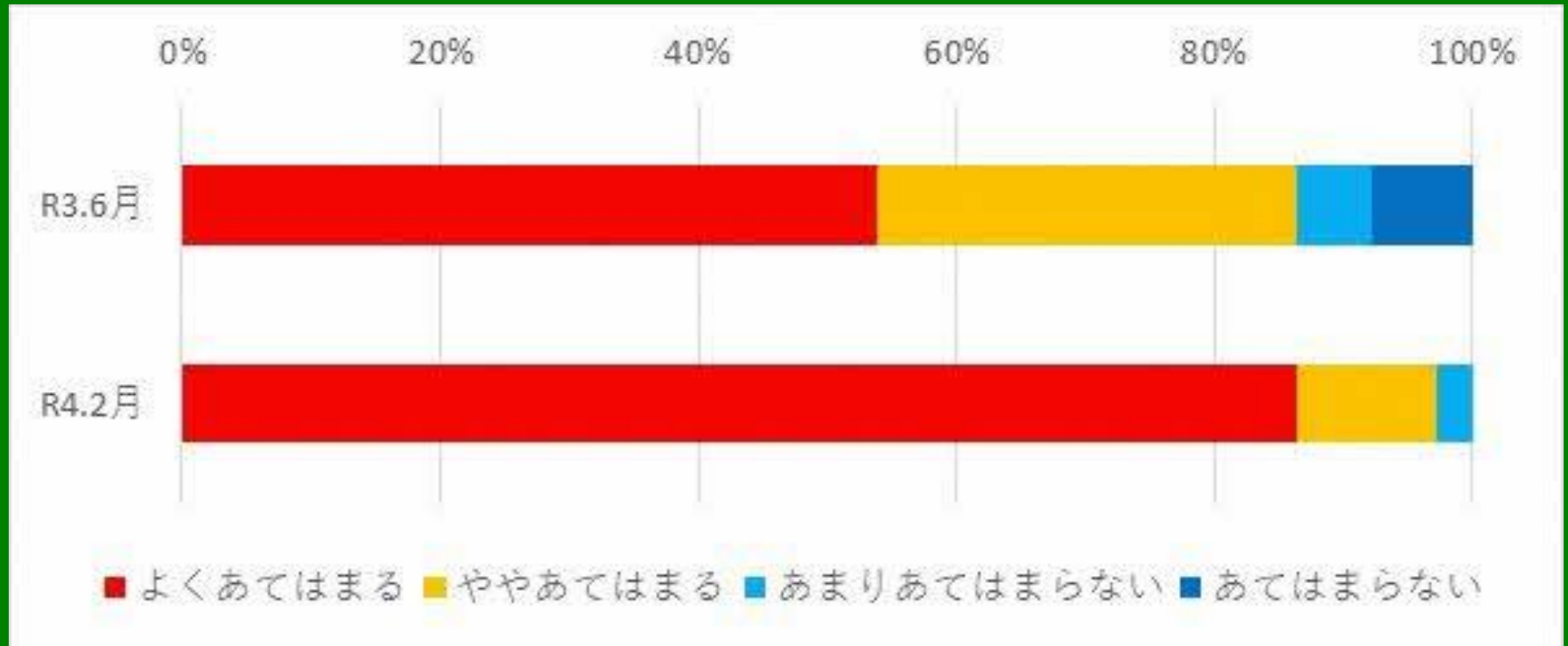
## ① クロームブックを使って文書作成ができる。



肯定的評価が、68%から73%に増加。各学年でクロームブックを使った文書作成（ポスター・広告など）を積極的に行ったことが要因といえる。

# 【児童生徒アンケート】

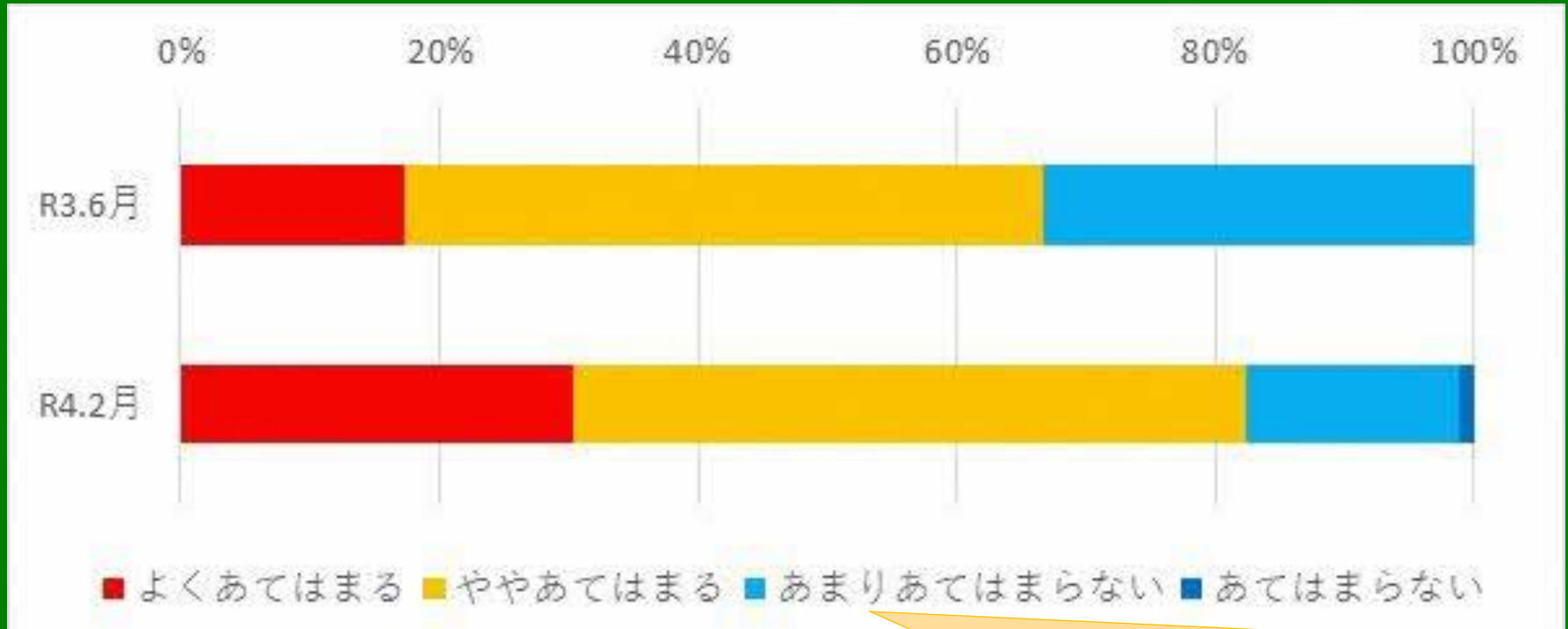
## ② クロームブックを使ってプレゼン資料が作成できる。



肯定的評価が、84%から95%に増加。各学年でクロームブックを使ったプレゼンテーション資料の作成を、積極的に行ったことが要因といえる。

## 【児童生徒アンケート】

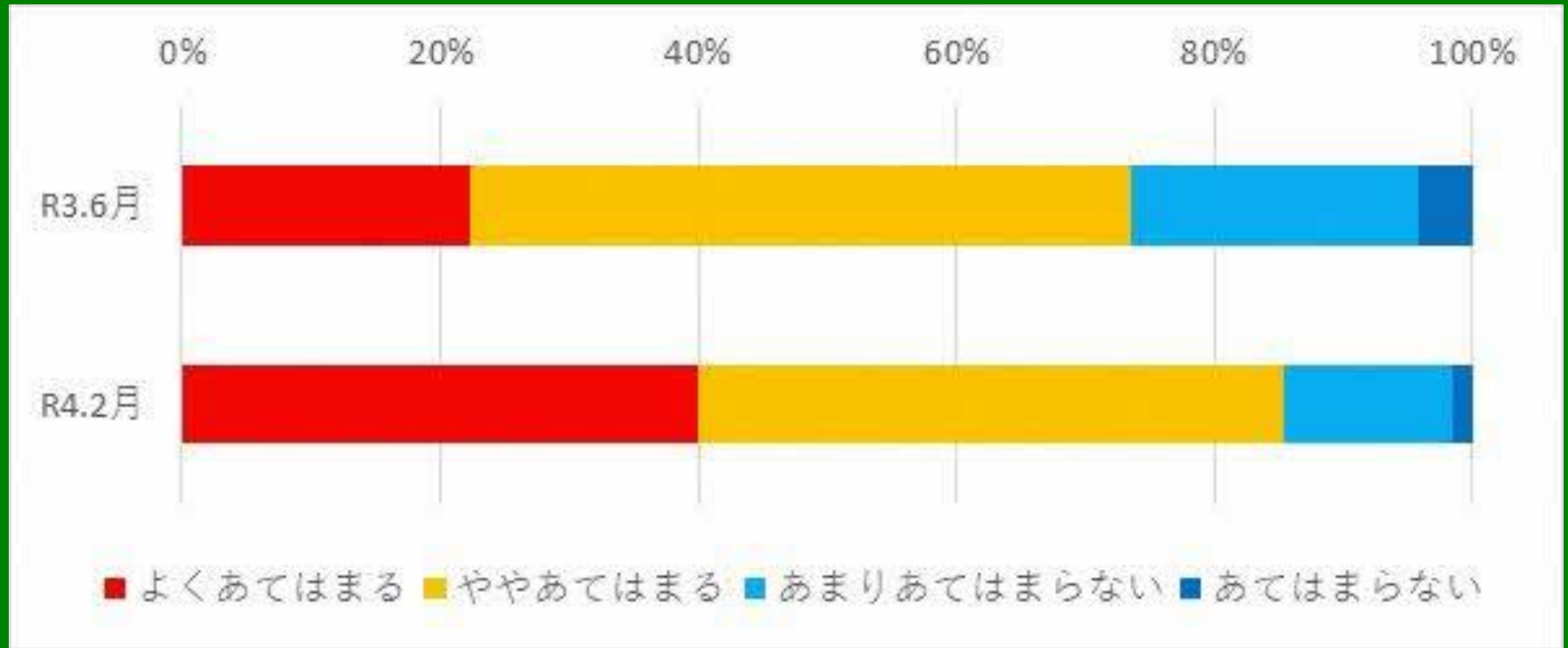
### ③資料の見せ方や話し方を工夫して、プレゼンテーションできる。



肯定的評価が、68%から82%に増加。自分たちの目的達成のために、学校運営協議会の場などでプレゼンテーションを行わせたことが要因といえる。

## 【児童生徒アンケート】

### ④失敗を恐れずに、いろいろなことに進んで挑戦できる。



肯定的評価が、73%から83%に増加。商品販売や学園PR動画の作成など、実社会の場で活動することに積極的に挑戦させたことが要因といえる。

# 【成果】

- 上半期と下半期の児童生徒アンケート結果から、知識及び技能（主としてICT活用力）、思考力・判断力・表現力等（主としてプレゼンテーション力）、学びに向かう力・人間性（主として主体性）のそれぞれにおいて、資質・能力の向上が見られた。
- 授業研究や日々の実践を踏まえつつ、各学年の単元計画をより探究的な学習が進むように修正することができた。
- 理論研修を踏まえて、それぞれの単元計画におけるルーブリックを作成することができた。



## 【課題】

- 児童生徒アンケートでは肯定的評価が増えた項目でも、教師の見取りによればそれほど数値が変容していないものがある。（「相手の反応を見ながら分かりやすく説明する」等）児童生徒のとらえと教師の見取りとの間に差が生じている。
- 与えられた課題を無難にこなすだけの学習活動が見られるなど、児童生徒が失敗したり再挑戦したりするような展開になっていない学年がある。
- ルーブリックを作成したものの、そのルーブリックが妥当なのか、本校の児童生徒にとって有効かどうか、未知数である。作成したルーブリックを基に、実際に評価を行う中で、その有用性を高めていく必要がある。



# 【来年度に向けて】

- 各学年の単元計画を再度見直し，与えられたレールの上を児童生徒が進むだけの活動になっていないかを再度検討する。
- 来年度以降，作成したルーブリックを基に，実際に児童生徒の評価を行う。その際，児童生徒自身の評価と教師の評価との間に差が生まれているという実態を考慮し，教師—児童生徒間でルーブリックを共有するということも考えられる。
- 今年度は3つの学年のみの授業研究であったが，来年度は全学年で実施する方向で計画する。  
(ただしすべてを全体研修にするのではなく，グループ別研修を取り入れる)



令和3年度探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会

主体的に学び 自分の言葉で語る 児童生徒の育成  
一郷土に学び、未来を拓くプロジェクト型学習を通して一



竹原市立吉名学園 有松浩司